

会 議 録	
会 議 名	令和7年度第1回丸亀市部活動地域移行等検討委員会
開 催 日 時	令和7年11月25日（火）午前11時～12時
開 催 場 所	ひまわりセンター 3F 会議室
出 席 者	出席委員： 漆原 光徳・香川 真実・亀山 京子・北村 満・小糸 太一・ 近澤 裕明・茶圓 徹・樋口 倫・前谷 智仁・三谷 勇気・ 山本 博美・渡辺 研介（50音順・敬称略） 傍聴人： なし 事務局： 末澤教育長・山下教育部長・田中協働推進部長 岩井学校教育課長・村尾まなび文化課長・平池スポーツ推進課 長・佐藤学校教育課主任指導主事・林まなび文化課副課長・丸 尾スポーツ推進課副課長・小磯スポーツ推進課主任・遠藤学校 教育課指導主事・大西学校教育課指導主事・多田市文化協会事 務局員
次 第	次 第 1. R7年度丸亀市の部活動の現状について 2. R7年度実証事業について 3. 国・県の現在の状況 4. 今後の予定について 5. その他
議事の経過 及び発言要旨	1. 開会 2. 委員自己紹介・事務局職員自己紹介 3. 教育長挨拶 4. 委員長選出 5. 議事 6. 閉会
事務局（遠藤）	本日は大変お忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。 ただいまから、令和7年度第1回丸亀市部活動地域移行等検討委員会を開催 いたします。本日の会議は次第に沿って進めてまいりますのでよろしくお願 いします。 なお、本日の議事録につきましては、ホームページ上に公開いたします。 ご了承ください。 まず初めに、この検討委員会にご参会の委員の方々に委嘱状をお配りいたし ております。ご確認ください。 続きまして漆原委員より名簿順に一言、自己紹介をお願いいたします。 （委員自己紹介） 本日、所用のため、齊藤委員は欠席されています。 なお、任期につきましては、丸亀市部活動地域移行等検討委員会設置要綱に より、令和7年11月25日から、令和8年3月31日までとなります。 続いて事務局職員、自己紹介をさせていただきます。 （事務局職員自己紹介） 続きまして、末澤教育長よりご挨拶申し上げます。

	<p>(教育長挨拶)</p> <p>次に、この会の委員長の選出についてです。 事務局といたしましては、委員長を昨年度から引き続き、漆原委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(拍手)</p> <p>それでは、委員長を漆原委員にお願いしたいと思います。 ご挨拶をお願いします。</p>
漆原委員長	<p>引き続き委員長をお引き受けすることになりました。 この委員会は地域移行の委員会になっていますが、今国の方も地域展開というふうに言っております、移行ということそのまま学校から地域に移るといった感覚がありますが、地域展開ということになると、おそらく繋がったり支えたりということを強調しなければいけないという思いがそこに入っているのだと思います。 丸亀市の子どもたちの将来を考えて、できるだけ良い方向に持っていけるように進めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局 (遠藤)	<p>ありがとうございました。それでは、ただいまから議事に入ります。 議長は、漆原委員長にお願いしたいと思います。 漆原委員長、お願いいたします。</p>
議長 (漆原委員長)	<p>それでは時間も限られておりますので、議長ということで議事を進めさせていただきます。 では、お手元の次第に従いまして議事の1です。 令和7年度丸亀市の部活動の現状について、ご報告をお願いします。</p>
事務局 (大西)	<p>それでは、非常にたくさんの資料がございますので、1つ1つの説明は省かせていただきます。 まず4ページ目が、中学校の部活動の男子の人数となっております。5ページ目は、女子。 6ページ目は、文化部に在籍している男女の部員数となっております。 7ページに加入率と書かせていただいておりますが、約82%の中学生が部活動に参加しております。これはかなり高い加入率ではないかなと思っております。 続きまして、8ページ目。こちらの方が、中学生の推移の予想となっております。令和7年度は2894名です。これが現在ですが、令和8年度から徐々に減少していくというふうに予想しております。 これは4月1日現在の住民基本台帳人口に過去5年間の実績による各小学校からの入学者率と社会変動率を合わせまして、算出しております。 9ページ目が、合同部活動と拠点校部活動の現在の動きです。 ロードマップにありますように、丸亀市は基本的に部活動を推奨しております。人数がそろわない場合には合同部活動、なお厳しい場合には拠点校部活動でやっていきますということで、令和6年度は、綾歌中学校と飯山中学校、東中学校と南中学校で合同チームを、野球部でしてまいりました。 令和7年度、今年度ですが、綾歌中学校と飯山中学校は同じように合同チー</p>

	<p>ムでしております。東中学校と南中学校は夏の総体まで合同チームでした。そして現在新チーム以降、東中学校と西中学校という形でやっています。これは、南中学校の部員数が 20 名を超えており、合同にすると、本来なら背番号が当たるような子も当たらなくなるということで、西中学校の方が部員数が少ないため、組み直しをしております。</p> <p>なお拠点校部活動につきましては、西中学校で、女子のソフトボールをやっており、東中学校から 1 名参加しています。</p> <p>続きまして、10 ページは部活動指導員の一覧となっております。</p> <p>こちらも現在のところ、運動部で 10 名、文化部で 2 名の方の協力をいただいております。ちなみに、令和 6 年度は、運動部が 9 名、文化部が 2 名でしたので、1 名増えております。この中の、5 番目の卓球の指導者は、「クラサポかがわ」に登録いただいております指導者で、四国学院大学の学生です。ちょうど西中学校の教員の教え子ということで、ある程度よく知っているということで採用しております。</p> <p>以上が部活動の現状となります。</p> <p>続けてアンケートを実施しました。11 ページ目からになります。</p> <p>これはグーグルフォームで、9 月 19 日から 10 月 3 日に渡り、中学生、教員、保護者へアンケートを実施し、まとめたものになっております。</p> <p>色が少しついているところが、人数が多かったところです。</p> <p>中学生の、部活動に所属する理由としましては、同じ中学校の仲間と活動ができるとか、学校が終わってすぐに活動できるという意見がかなり多かったように思います。</p> <p>続いて 14 ページまでが中学生のアンケートの分析です。また後で見ていただけたらと思います。</p> <p>続きまして、15 ページ目が、教員のアンケートです。教員につきましては、195 名中 157 名の方から、中学生と同じ期間内にアンケートをしまして、回答をもらっております。</p> <p>やりがいはいろいろなところで感じておりますが、特に子どもの成長というのは多いようです。負担に感じるところも、ここにある 3 つぐらいが非常に多い結果となりました。その他 18 ページ目まで、教員からの回答をまとめておりますので、また後でご確認いただければと思います。</p> <p>19 ページ目。こちらが、保護者へのアンケートです。</p> <p>全家庭 2609 ある中の、584 名の方が回答いただきました。</p> <p>地域移行については、先生方の負担を少しでも軽くしたいという意見が出てきております。</p> <p>アンケートにつきまして、以上です。</p>
議長（漆原委員長）	<p>かなり資料が多いですが、少し見ていただきまして、ご質問ありましたらよろしく申し上げます。よろしいでしょうか。</p> <p>続きまして議事の 2 に行きたいと思っております。</p> <p>令和 7 年度の実証事業につきまして、事務局から申し上げます。</p>
事務局（大西）	<p>本年度、国の実証事業について学校教育課の方では、四国職業能力開発大学校の協力を得まして、3 つの教室を実施しております。</p> <p>これは、休日の生徒の受け皿の開発ということでやっております。</p> <p>ここには 4 つありましたが 2 番目の FA 体験につきましては、人数が十分揃わなかった関係で中止いたしました。</p> <p>その他のものは、少ない人数ですが実施いたしております。</p> <p>まず、3 つ目の AI レジの作成。これは参加者が 1 名だったのですが、カメラで品物を認識してそれがいくらかなのかというのを計算していくようなソフ</p>

<p>議長（漆原委員長）</p>	<p>トを開発していくというものです。 次に行いました4番目の住宅設計体験。これはパソコン等を使用しました。 これは、10数名の応募者がありました。 最後に行われたのは、KIKAI-1グランプリというものです。 同じような模型をいかに改造していくか。動力は紐を軸に巻き付けて、それが戻ってくる力を利用して、車が走行する距離を測るというものになります。 こちらは9名の参加がありました。それぞれの様子が23ページにあります。</p> <p>では続きまして、まなび文化課お願いいたします。</p>
<p>事務局（村尾）</p>	<p>それではまなび文化課の方からご報告を申し上げます。 資料の方2枚になっておりまして、文字が多い方からご覧ください。 まずまなび文化課における取り組みとしまして、目的につきましましては、ロードマップに基づき、地域の文化芸術団体と学校・生徒とのつながりをつくる取り組みを実施することで、将来的な部活動の地域移行に向け、関係性の構築や環境の整備を図るということで、これは継続して行っております。 今年度の取り組みですけれども、2つ。1点目は文化クラブ体験会、2点目がまるがめ文化芸術祭2025主催公演ということですが、 まず(1)の文化クラブ体験会につきまして、内容ですけれども、文化芸術団体による、小学校・中学校へのアウトリーチということで、校長会で募集をかけております。対象が小学校4年生から6年生と中学校1年生ということですが、 時間区分は小学校については全国クラブの時間枠、中学校については、随時授業時間または部活動の時間を使っていただくということで、応募しております。 ジャンルにつきましては丸亀市文化協会の9分野11団体で、その以下の通りになっています。実際に実施したところ、もしくは実施予定のところですが、城辰小学校全7回講座でこれまでに4回終了しております。華道、茶道、マジックになっております。飯野小学校については令和8年の2月3日に実施予定です。南中学校吹奏楽部については12月6日の予定をしておりまして、こちらは吹奏楽部となっておりますが、これがいわゆる実証事業の位置付けになっております。 続きまして2点目、チラシの方にもありますけれども、まるがめ文化芸術祭2025を先日11月23日に行いました。 内容は、吹奏楽のクリニックと参加者全員による合奏ということで、対象が吹奏楽演奏経験者。これは中学生、高校生はじめ今まで楽器を触ったことがある方、それから、今はもう活動を中止している方、そういった方も含めて対象で応募しております。 会場はアイレックスにおきまして、指導は丸亀シティフィルハーモニックオーケストラの皆さんにお願いしております。 参加者ですけれども、具体的に、市内中学校が吹奏楽部35名、全体中高生が38名でしたので、ほとんどが市内の中学生に来ていただいたということと、合わせて一般の方、大人の方が30名ほどいたということになります。 総勢90名による合奏に加えまして、ここにお客様も入れまして、練習から本番までを見られるという状況を作っております。 今のところアンケート等集計途中ですけれども、非常にやることに意味があったと。それから、子どもたちもすごく楽しんでやっていたというふうなこと。あわせて、大人の方も一緒にやってよかったというふうな感想をいただいております。</p>

	<p>内容につきましては、後程近澤委員からも、また、ご説明をいただいたらというふうに思います。まなび文化課からは以上です。</p>
議長（漆原委員長）	<p>スポーツ推進課の方、実証事業につきましてお願いいたします。</p>
事務局（小磯）	<p>続いてスポーツ推進課の方のご説明をします。 資料について、差し替えで一部カラー刷りのものをお配りしています。 スポーツ推進課の方ではスケートボード教室というものを10月5日から12月28日までの毎週火曜日と日曜日に、1部・2部に分かれて実施をしているところです。チラシについては、ここに記載しているものです。 実施状況ですが、現在11月23日の日曜日を合わせると全15回実施をしております。 講師につきましては、香川県スケートボード協会というところから、毎回4名を派遣していただいています。 月報報告ですので現状10月のものしか報告は上がっていませんが、記載している実施状況の通りです。 現状課題としまして、部活動の地域展開ということで実施している事業ではあったのですが、どうしても小学生の参加者が圧倒的に多いというところです。10月の状況を見ていただいても、火曜日に3名はおりますが最終的に28日には0名です。11月の月報でどうなっているかを確認しようと思いますが、小学生にはかなり人気のスポーツなのだというふうに思っています。 今後の展開として、まだ、28日までありますので、状況を確認しながら最終日には小中学生、保護者、それぞれにアンケートを実施して、満足感、満足度だけではなくて保護者の負担感等についても、調査をしていく予定です。 以上です。</p>
議長（漆原委員長）	<p>なにかご質問ございますか。 あるいは、近澤委員にここで説明をしていただければと思いますが。</p>
近澤委員	<p>先ほどの25ページ「集まれ演奏者！！」ですが、この企画に当たりまして、学校施設、学校設備、音楽室、体育館、楽器をお借りするというような問題点もあると思いますが、先ほどの資料の中にもございましたとおり、父兄が部活動に対して関わりたいか関わりたくないかということ、学校にお任せしたい、ということがかなり大きな問題点に今後なってくるのではないかとこのことに着目しております。というのは、私はちょうどベビーブームのころの年代となっておりますので、数の論理で何も心配なく、潤沢に資金がまわり、部活動ができていたというような時代でございます。 例えば先日、すべて合わせて90名という演奏者でしたが、僕らの頃は、部活動自体の部員数が90名いた。 レギュレーションで50名のところに出そうすると1軍・2軍を作るというような時代。ちょうど同級生の野球部さんなんか1軍・2軍・3軍とかも作ったりして、レギュラーを競い合うというふうな時代が、今は地域を跨いでメンバーを集めなければならない。 そのような状態の中で、どこかに人を移動するとなると、保護者の方々のご協力が非常に有効に活用する、逆に問題点にもなってくると思っております。 今回一般の方も含めて募集をしたのは、部活動を見えていますとお父さんお母さんが昔吹奏楽をやっていた家庭が結構あり、楽器を持っているけれど子育</p>

	<p>て中のため吹いていないお母さんや、場所がないからやっていない方、興味はあるけどもクラブに所属するほどの時間はないという方が結構いらっしゃるので、それでしたら、部活動の送迎だけするのではなくて、子どもと一緒にお父さんお母さんも部活動をしたらどうかというようなことを、テストケースとしてできないかと思ひまして、アイレックスを活用しました。今回の申し込みで実は親子の申し込みがありました。数名、お父さんお母さんの申し込みがありまして、お子さんが中学生、お父さんお母さんが参加。</p> <p>見えていますとやはりそこで家族のつながり、おそらく学校教育の方でも問題があると思ひますが、家庭内でも親子の関係であるとか。そういったものも含めて学校教育の場、家庭教育の場、そして部活動の場というのを見る中で何か解決につながるものが見つかれば良いなと思ひて企画しましたら、大編成の音楽が可能になったというか、通常であればなかなかできない大きなことができた。できたことの方が多かったという結果が得られました。というところで、まだまだ問題点等々はたくさんあると思ひますけども成果はあったのではないかと思ひております。</p>
議長（漆原委員長）	<p>それでは続きまして議事の3です。 国・県の動向につきまして事務局からお願いします。</p>
事務局（佐藤）	<p>事務局からご説明させていただきます。 資料の27ページをご覧ください。 こちらは先月、国が示したガイドラインの骨子となっております。 こちらは令和7年5月に実行会議の最終取りまとめを受けまして、国が今後ガイドラインの方を1月から2月に策定するというところまではお聞きしているのですが、その骨組みになっているものです。 資料28ページをご覧ください。 全体の構成としましてはこのような形で示されるものとなっております。 こちらのポイントにつきましては29ページです。 新たなガイドラインの骨子のポイントとしまして、改革の理念等につきましては、急激な少子化が進む中でも将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実。すべての生徒が希望に応じて、多種多様な活動に参加できる環境を整備。学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、新たな価値を創出するということが理念に掲げられております。 改革期間は6年間ございまして、改革実行期間前期を終えまして、中間評価をした後に後期というような形の6年間となっております。 取り組みの方針につきましては、休日については、改革実行期間内に原則すべての部活動において地域展開の実現を目指す。 現時点で着手していない地方公共団体においても、前期の間に確実に休日の地域展開に着手。平日につきましては各種課題を解決しつつ、さらなる改革を推進となっております。 ただし注釈にありますように、学校部活動をベースとした地域との連携など、地域の実情等に応じた多様な改革を進めていくことが重要ということも示されております。 資料30ページをご覧ください。30ページの下から6行目でございます。 地域ごとに部活動を取り巻く状況や、地域資源の状況等が異なるため、学校部活動をベースとした地域との連携や、学校施設を拠点とした地域クラブ活動の実施など、地域の実情等に応じた多様な改革を進めていくことが重要ということで、資料29ページに戻りますが、取り組みの方針としては休日・</p>

	<p>平日それぞれ目標が出ておりますが、実情に応じてというところも注釈としてあるというような状況です。</p> <p>そして、新たなといいますか、詳しく追記されておりますのが認定制度についてです。</p> <p>国が定めた要件等に基づき、市町村等が地域クラブ活動の認定を行う仕組みを今後、地域展開となりましたら構築していく必要があるのかなというところで、「認定地域クラブ活動」というのが国の呼称になりました。</p> <p>主な要件としましては、主に従来の部活動が活動していた、担っていたものを継承しているような形です。</p> <p>つまり平日は2時間以内、休日3時間以内で、週2日以上休みなさいというような、部活動に準じるような活動を行いなさいということになっております。</p> <p>その認定を受けましたら、公的支援であったり、大会等への円滑な参加ができたりというような、特定が得られるような、認定地域クラブ活動というのを進めようというところが新たに詳しく書かれているところだと思っております。それ以外については資料の方つけております。後程ご覧ください。私からは以上です。</p>
議長(漆原委員長)	<p>ただいまご説明いただきましたが、いかがでしょうか。</p> <p>認定の制度が始まるようです。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>学校現場の状況も踏まえて、樋口委員さんいかがでしょうか。</p>
樋口委員	<p>今各部活動は新人戦があつて、時間がある限り私も応援に行かせてもらっています。その時の子どもたちの姿というのは印象的で、応援できる部活動というのは素敵だなというのがあります。あと、子どもが主体になって頑張っている部分があるので、いわゆる子どもファーストで考えていく必要があるのかなと思うと同時に、それを支えてくれている先生方は大変な苦勞をされているというのは事実なので、先生方の負担軽減というのは考えながら、その両輪でできたらいいのかなという気はしておりますが、具体的な策はまだどうも出てこないです。</p>
議長(漆原委員長)	<p>中体連の方は、茶園委員さんいかがでしょうか。</p>
茶園委員	<p>中体連の方としても、部活動の教育的意義というのは、誰もが認める場所ではあります。</p> <p>ただ、若い先生方が非常に増えてきていて、その先生方の働き方改革。とにかくそのところがクローズアップされて、若い先生が部活動の指導に関わることに抵抗感があるというのは、どこの市町も同じような状況です。ただ部活動を指導する上で、今まで私たちが教員になったときは、教員イコール部活動指導はついてきていたものなのですけれども、これが変わってきていて、昔は専門じゃない部活動に関しても、自分で学んで、自分でいろんなところへ学びに行つて、教わりに行つて、勉強して、自分が教えることによって子どもたちが変わっていく、成長していくという、そういった楽しみを感じていたのですけれども、若い先生方たちの意識が変わってきてしまっているというのは非常に大きく感じております。</p> <p>今、部活動を中心に見られている先生方、昔の感覚で見ているらっしゃるのですけれども、その先生方にきちんとした手当がつけられるような、そういつ</p>

	た行政的な関わりというのも非常に大切なのだろうなと思っているところでございます。
議長（漆原委員長）	亀山委員さん、いかがでしょうか。音楽の方とか或いは文化系の状況を教えていただけたらと思います。
亀山委員	この資料の中にもございますように、部活動に参加しておるものの4分の1の生徒さんは、文化部に所属しております。 また、1年生の加入率が、運動部・文化部ともに多いということで、次年度の文化部の加入率も気になるころだなと思っております。 各校の何人かの文化部の先生方に伺ったところ、部活動によっては非常に増えているところもあるようです。 生徒のアンケートの中にあるように、自分のところの学校の仲間と一緒に活動できる喜び。一方で、誰とでも気軽に参加ができるような関わり。それが不安にも表れていて、他校の生徒との関係という、子どもたちもいろいろとどうなるのかなあと思っているところがあるように見受けられます。 丁寧に、説明を、子どもたちにもしていけたらなと思っているところです。 以上です。
議長（漆原委員長）	前谷委員さんいかがでしょう。小学校から見て、今どんなふうに小学校高学年の子たちがとらえているのかすごく私も興味があるところなのですが。
前谷委員	部活動には入りたいという気持ちはもちろん6年生あります。 ただ、南中が校区ですが、南中に気になる部活動があるかどうか。なかったら他の校区に行きたいなというふうに考えている子どもも、ほんの一握りですが、いるというのもございます。 部活動というのは、関心が高いかと思えます。
議長（漆原委員長）	先ほど茶園委員さんから、若い教員の、というお話が出ていましたが今実は大学でも、教員を目指す学生が激減しております。 話を聞いていると、大変だというイメージが、メディアでのニュース等も含めて、現場の先生たちの大変さというのをすごく感じてしまうということと、仕事が今、選べるようになってきていて、景気も良いので、一般企業に相当流れているという印象を私受けています。 ですから運動部に所属していて、小学校・中学校或いは高校の教員にと言っていた学生が、簡単に企業に行ってしまうという現状があって、その1つはやはり、部活動が織り込み済みではなくなったという現状があるのかなという気が大学にいても私自身しているところです。 いかがでしょうか。PTAの立場から、何かご意見、ご質問等いただければ。 北村委員さん。
北村委員	まさに今、中学校の野球部に息子が所属してしまっていて、丸亀クラブやアカデミーといろいろ聞きますけど、まず保護者がそういう説明を受けても、実際の詳細の言葉が下りてきていないのが現実かなと。 監督とか先生方に相談しても、まだ明確になってないという言葉が大半でありまして。保護者の立場で言わせてもらいますと、小学校から少年野球チー

	<p>ムに入っている子はそのまま中学校の野球部に行っても特に問題ないので、中学校から野球してみたいという本当の素人の子が、このアカデミーとか、勝利主義のチームになった場合に、果たして、練習から試合に関して本当に活動できるのか。また、レギュラーチームの保護者は野球の試合に行っても応援できるのですが、補欠の、1打席・2打席出られるような子の親は子どもに対しても、もうそれぐらいしかできないのだったら野球もやめてしまったらどうなのというぐらいの現状が今起きているわけです。今、南中がなぜこれだけ人数が増えていっているかという、数年前から試合でも必ず2試合の中でどこかでは出すというプランでやっていただいています。</p> <p>僕の息子も入ったときに、素人当然でしたが、それはいい方向性だなと思ひまして。</p> <p>ただ、昨年南と東で合併したときに、南と東の温度差といいますか。東は勝利主義、南は楽しい野球というコンセプトでやっていたものを、いきなり合併したときに、保護者の間でも、20何人が行ったり来たりで全員が動くよりも、試合に行くチーム、練習するチームというのを別行動できるように2パターン作ってもらい、あまりうまくない子は個人練習という形でさせてもらったので、少し底上げができたかなという感じです。</p> <p>今、2年生の保護者に聞いても、うまい子はいいのですが、受け皿で部活動という形で残して欲しいという保護者はたくさんいます。</p> <p>アカデミーや丸亀クラブで、2チームを作るっていうのは構いませんが、部活動で1チーム組めるチームは、臨機応変に試合に出る年、出ない年をつくるぐらいの柔軟性があれば、野球人口は増えていくのかなと思います。</p> <p>やはり、負担が大きいので野球をさせないという保護者をたくさん僕は見てきました。上の子も野球をしていたので。その10年の間に、野球人口が減ってきたのにここ最近が増えだして、何かと思ったら、お茶当番や保護者の負担が減ってきたということが一番のように思います。</p> <p>またこのアカデミー化にして各校に移動、移動、遠征、遠征になった場合に、また保護者の負担で野球人口が減っていく可能性があるので、できたら部活動として置いてほしいという保護者としての意見がたくさんあったことをお伝えしようかと思ひます。</p>
議長（漆原委員長）	<p>今野球のお話をいただきましたので、続いて議事の4で、今後の予定のところをお話いただきたいと思ひますがよろしいでしょうか。</p>
事務局（大西）	<p>最後のページです。</p> <p>今話がありました丸亀クラブ。これは仮の名前とはなっておりますが、今作っていろいろ動いております。</p> <p>いろんな話をしながら、いろんな保護者のご意見も考えながら進めていくつもりではございます。</p> <p>目的の方としましてはここに書いてある通りになります。</p> <p>先ほど、合同チームを組んだり解消したりして、別のところと組んだりというのはあったと思ひますが、毎年のように変わってしまうと一番困るのは子どもでないかなということで、このクラブをしたらどうかということでスタートはしました。</p> <p>内容につきましては意見をいろいろいただきながら、修正していきます。</p> <p>とりあえず、本年度中にこのクラブは設立していく予定になっております。</p> <p>2番目に書いてあるところです。</p> <p>当然クラブをしていくとなると、いろいろな予算等もかかってきます。</p>

	<p>また、これには役員を置いていかなければなりません。それゆえの交渉もしているところです。</p> <p>続いて3番目の会員の募集ですが、部活動を基本に考えておりますので、新年度の募集を予定しております。</p> <p>部活動とほぼ同じような活動で、ただ、人数の方が少なくなってきた関係でクラブ化していくというふうに考えております。</p> <p>その中でいろんな課題が出てきております。</p> <p>これを1つずつ解決していかなければなりません、特に指導者の確保です。あと運営をするために、初期運営費というのでもかなりかかってまいりますので、これをいかにしていくかというのを、また、いろいろな方面と検討していきます。</p> <p>これはクラブの野球のことについてですが、基本的に丸亀市でも、考えていかなければならないということで、学校教育課の方でも、来年度以降、どのようにしていくかというアイデアを今出し合っておるところでございます。次のときに、それをご提示できたとは思っておりますが、丸亀市の進んでいく方向というのを、このクラブ化も、部活動は大切だということを考えながら進めていきたいということです。こうやりますということは言えませんが、十分検討しまして、子どもたちにとって必ずプラスになるような方向で考えていきたいと思っておりますので、ご理解いただけたらと思います。</p>
議長（漆原委員長）	軟式野球のクラブを設立するということで、今動かれているという現状です。いかがでしょうか。
北村委員	この軟式チームは丸亀市の中学校対象なのでしょうか。
事務局（大西）	丸亀市の公立中学校を対象としております。
北村委員	<p>巷では、丸亀にクラブチームができるので、よその学校の子も入ってくるという噂が波立っています。詳細があやふやでいろんなところから、丸亀クラブっていうものがどんなクラブかっていうのを聞いてきて欲しいと言われています。</p> <p>本当のクラブチームじゃなくて、丸亀公立の中学校を集めたクラブチームという感じですか。</p>
事務局（大西）	<p>現在考えているのは、丸亀市内の公立の中学校の生徒を対象としております。</p> <p>それで基本的には、先ほども佐藤のほうから説明あったと思いますが、国・県の動向の中にありました、部活動の延長として考えておるクラブをイメージしています。だから、地域の受け皿として。</p> <p>先ほど言ったような話も実はしております、素人の子を、私の息子も中学校で野球を始めて素人だったのですが、そういう子たちを集めての練習会も、何回かはしていかないと、というふうなことも考えています。</p> <p>経験者、未経験者問わず、受け入れる方向は考えております。</p>
議長（漆原委員長）	部活動の受け入れといいますか、まさにその地域で展開していくクラブという位置付けに考えられているということなのだと思います。

	<p>私も硬式野球部の部長をしていますので、中学校から民間クラブで硬式をやっているという子たちがいて、おそらくそことどうなのだというお話が出ているのかなと思いますが、丸亀市は今のよう、軟式で部活動の受け皿ということですので、その方向でご説明いただければという気はします。同様に PTA の香川さんいかがでしょうか何かありましたら。</p>
香川委員	<p>3 年か 4 年前。今の高校生、私の息子が中学生のときに、卓球部に所属させていただいていたのですけど。 高松の方で試合があるということで、保護者として送迎したのですが、先生の伝達ミスというか、会場が丸亀だったことがあって、急いで保護者と協力して生徒を乗せて会場に行ったということがあって。その時になにか保護者としても会場の情報などの共有をできていたらよかったのかなというふうに感じて、何か保護者として協力できることがあればいいなとずっと思っていました。 どこまで何をしたいのかは全くわからないので、学校の部活動の先生と話す機会があればいいのですけど、そういう機会がないので、話し合いの場というか情報の共有というか。保護者としては、子どもたちに頑張ってもらいたいとか成長を見たいというのがあるので、そういう話し合いの機会ができると保護者も協力しやすいなと思っています。</p>
議長（漆原委員長）	<p>どういふふうに情報を共有していくかっていうのは、どこでも課題でありまして、うちの野球部は親御さんに、グループ LINE を作っていただいてそこに全部、試合情報、部の情報を流しています。今 SNS は安全性の面であるとかその辺の問題があるのですけれども、その辺りも、中学校の現場でも学校教育現場のでも考えていかなければならないことなのかなと思います。 いかがでしょうか、委員の皆様、ご意見ご質問等いただければと思いますが。スポーツ推進委員の三谷委員さん、いかがでしょうか。</p>
三谷委員	<p>私は、11 ページのアンケートの中で、地域展開された部活動への希望というところがすごく興味深かったのですが。 専門の指導者から教えてもらいたいのが 1 番、2 番目には誰とでも気軽に参加できるような活動とあって、専門の指導者っていうことはかなりレベルの高いところを求められているところかなと思います。 誰とでも気軽に参加できるような活動というのは、逆に、初心者の方でも気軽に参加できるということ。 非常に要望の高い 2 つのアンケートが、非常に矛盾というか正反対。 そこはやはり、先ほどおっしゃったように、初心者でも参加できる部活動でもあり、親御さんが期待しているところは、小学校から経験されている方がさらにレベルアップしたいってところ。 そういうところが今まで部活動でしたら、みんな同じ学校でそうやられていたのではないかなとも感じたのですが、ここ最近では、その格差が非常に出てきているような気がしております。 特に今回、野球の話が出ていたのですが、少年野球に携わっていると今後中学校に行くときに、皆どこ行くのという話を聞きます。その子のレベルに応じて、いろんなところに行ってもらっているような気はするのですが、期待しているところは、硬式のクラブ活動に行くか、高校野球に入って甲子園を目指したいとか。家族ごとにちょっと意識が高い方もいらっしゃる、健康や学校のみならず仲良く活動することを重視する方もいっぱいいらっしゃる。</p>

	<p>だからアンケートからこの2つが上位に残っているのは、非常に興味深い。方向としては複数あって、でもやっぱり競い合えるような関係であつたらいいかなという気はしているのですが、やはり、ここは今後もこういう話になると思っているところです。</p>
議長（漆原委員長）	文化協会いかがでしょうか、山本委員さん、何かございますか。
山本委員	文化協会の団体さんが小学校と関わらせてもらっているのですが、学校と関わっていただく団体さんとのすり合わせを、今、事務局の方でしています。学校側の要望を聞きながらも、文化協会の団体さんがいままで自分たちで作り上げた、経験してきたことも踏まえて考え方をすり合わせていくことに難しさを感じていまして、これからも丁寧に話し合いを重ねていく必要があるなと思っています。
議長（漆原委員長）	スポーツ協会さん、何かございますか。
小糸委員	うちにはスポーツ少年団がありますが、スポーツ少年団からもこの地域展開のお話については興味があるところで。今北村委員さんが言われた通り、いろんな噂が錯綜している中で、この丸亀クラブの話とかも聞いて、こちらの方では全然わからないような状況だったので、今教育委員会さんが進めているところだとは思いますが、教育委員会とスポーツ推進課で情報共有をもう少し密にさせていただいたら、スポーツ協会の方にも下りやすいというか、こちらも、スポーツ少年団から何か話が出たときもお返事ができるのですが。今はそうでない状況ですので、進めていくうえで、そういう形も共有していただけたら、うちの方の指導者たちも保護者にもお伝えできるのかなど。今の状況であれば、変な噂、全然間違った噂が流れていって、展開していくにあたって障害になってもいけないので、そういう形をとっていただければありがたいなと思います。
議長（漆原委員長）	<p>では以上をもちまして、本日のすべての議事を終了させていただきたいと思います。</p> <p>委員の皆様方、どうもご協力ありがとうございました。</p>
事務局（遠藤）	<p>漆原委員長どうもありがとうございました。</p> <p>次回の検討委員会につきましては、2月中旬頃開催させていただく予定です。内容につきましては、令和8年度からのロードマップの検討を考えております。</p> <p>以上をもちまして、令和7年度第1回丸亀市部活動地域移行等検討委員会を終了いたします。</p> <p>ご協力ありがとうございました。</p>